



町をきれいにクランピー情報局

問 環境課ごみ減量係 ☎(95)9899

台風時におけるごみ収集

■ 燃やすことのできるごみ収集

- ・台風接近時のごみ出しは危険です。また、ごみの飛散にもなるため、できる限りごみ出しは控えてください。
- ・ごみ収集は、暴風警報発令中でも作業の安全確認をしながら収集をします。ただし、風雨の状況により、やむを得ず中止する場合があります。
- ・中止の場合は、出されたごみ袋はできる限り引き下げ、次回の収集日に出してください。
- ・台風時のごみ収集および中止時の次回ごみ収集では、収集時間が普段とは異なることがありますので、朝8時30分までのごみ出しにご協力をお願いします。



■ 資源ごみステーション・粗大ごみステーション

●ステーションの中止

- ・前日の16時において暴風警報が発令、または当日のステーション開設時間帯に発令が予測され、当日実施が困難だと想定される場合は中止します。
- ・当日の6時に暴風警報が発令されている場合は中止します。
- ・当日のステーション開設中に暴風警報が発令された場合はその時点で中止します。

●ステーションを中止した場合の代替開設日

- ・資源ごみステーションが、火・水・木曜日開設だった場合は、同一週の土曜日に同一時間で開設します。金曜日開設だった場合は、翌週の月曜日に同一時間で開設します。
- ・粗大ごみステーションの代替開設日はありません。

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎(41)4566

No.74 油ヶ淵の誕生(3)

米津から鷺塚まで堤防が築かれたことで、北浦の海は油ヶ淵へと変わりました。北にある碧海台地に降った雨水は、四つの川から油ヶ淵へ流れ込みます。東から朝鮮川、半場川、長田川、稗田川です。油ヶ淵の水を海へ排水しなければ、湖岸となった村々の田畑が水没してしまいます。

1644年、米津・鷺塚間の矢作川堤防工事にあわせ神有（亀穴村）と鷺塚本郷との間、鷺塚半島の細くくびれた場所に排水路を掘ることになりました。この工事（普請）は池まわりの村人たちによる百姓普請と伝えられています。

油ヶ淵には、4つの川が流れ込むのに対し排水路は1つということで、油ヶ淵の水位があがることは湖岸の村人にとって、大きな悩みでした。そこで、1662年、三河を治める幕府代官、烏山牛之助は油ヶ淵の排水を良くするため、幕府勘定奉行へ排水路を大きくする工事を願い出ることになりました。

烏山牛之助は、排水できないために起きている村ごとの収穫高を計算し、説明の絵図を添えて、幕府に提出しています。この時の油ヶ淵は、今よりはるかに大きいものでした。湖岸にあった村は米津、城ヶ入、根崎、和泉、東端、西端、榎前、高取、大浜、鷺塚の十か村でした。この時の大浜村は現在の新川までが大浜村でした。油ヶ淵のまわりにあった村々は、池まわり10ヶ村という「しばり」で排水路拡張工事をしています。

昭和末ごろまであった「しゃもじ池」「ひょうたん池」「おはつ池」は、掘割された排水路の一部が残ったものでした。鷺塚村地内の旧字名の東大間、西大間の間に排水路はありました。



△烏山牛之助の開削願い絵図
(碧南市蔵)